

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **110** 号

令和元年 7・8・9月



◎十二神将立像のうち寅神（奈良 東大寺）

わくわくびじゅつギャラリー

いのりの世界のどうぶつえん
7月13日(土)～9月8日(日) 東新館

特別陳列

法徳寺の仏像
－近代を旅した仏たち－
7月13日(土)～9月8日(日) 西新館

名品展

珠玉の仏教美術
7月13日(土)～9月23日(月・祝) 西新館

名品展

珠玉の仏たち
通期開催
なら仏像館

中国古代青銅器
通期開催
青銅器館

いのりの世界のどろどろえん

7月13日(土)～9月8日(日)

この展覧会は、仏教美術の中から、動物や想像上の生き物を表し、描いた作品を集めてご紹介するものです。「どろどろえん」はなぜ、仏や神の世界にさかんに登場するのか、どうしていのりの場のデザインにたびたび取り込まれるのか、その秘密に迫ります。また、日本で仏教美術が本格的に生み出される以前の、くらしの中のいのりに関わる動物造形もあわせて紹介します。

展覧会場には、お子様から大人の方まで、わくわくしながら鑑賞していただけるよう、様々な工夫をこらしています。博物館・美術館デビューのきっかけや夏休みの自由研究のテーマ探しに、また、仏教美術に親しむ第一歩として、ご家族皆様でお楽しみください。



◎文殊菩薩騎獅像 (文化庁)



獅子・狛犬 (奈良 薬師寺)



牛玉像 (京都 海住山寺)



◎伎楽面 迦楼羅 (奈良 東大寺)



●辟邪絵 神虫 (当館)

法徳寺の仏像

―近代を旅した仏たち―

7月13日(土)～9月8日(日)

法徳寺は奈良市十輪院町に位置する融通念仏宗の寺院です。この寺に近年寄進された約三十軀の仏像は、かつてひとりの実業家が収集したもので、南都伝来あるいはそうと推測される作品が少なくありません。

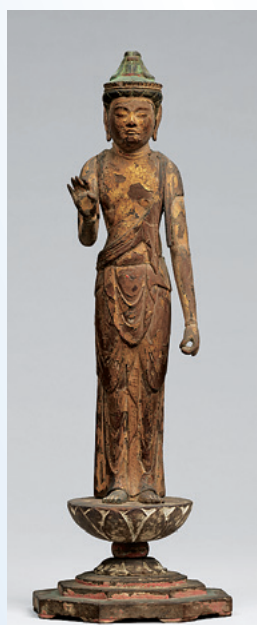
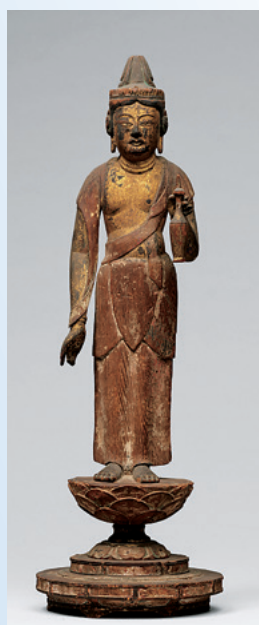
いずれも個性豊かですが、これまでその存在さえ認知されていなかった、いわば知られざる仏たちです。本展では、これら諸像を広く紹介するとともに、X線CTスキャン調査をはじめとした最新の調査成果もふまえて、その魅力に迫ります。



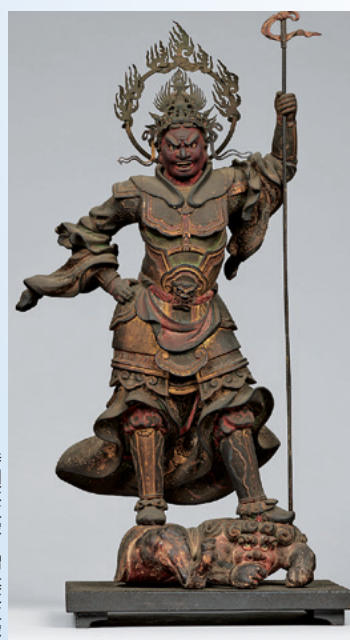
観音菩薩立像



菩薩立像(興福寺千体仏)



いずれも奈良
文殊菩薩坐像
法徳寺所蔵



持国大立像・増長天立像



奈良博の「おもてなしの多言語対応」

当館学芸部研究員 張 小娟

日本文化を世界の人々に知ってもらうことは今日国を挙げての事業となり、ここ数年ますます日本にやってくる外国人観光客が増えている。その中にある国立博物館の外国人観覧者数も増加傾向にある。このような背景の下、国立博物館四館では日本語・英語・中国語・韓国語による多言語対応を推進している。四ヶ国語対応は二〇一七年度に計画が起り、翻訳スタッフの採用などが本格始動した。



多言語インフォメーションでの案内

奈良国立博物館では二〇一七年度以前より、日本語と英語の解説を行ってきたが、実は二〇一五年よりインフォメーションデスクに英語スタッフに加え、中国人や韓国人スタッフを配置するサービスを行っている。外国人観覧者の満足度を上げるためには館内の表示用語や展示室の解説文、そしてウェブサイトなどに多言語を充実させることはもちろん、インフォメーションにおける多言語対応が大切なことは言うまでもない。中国語や韓国語を話せるネイティブのスタッフをインフォメーションに配置し、「生」の

声で直接お客様に対応している。インフォメーションでの案内業務の内容は大きくチケット販売の通訳と展示案内の二つに分かれる。展覧会によりチケットの種類や料金が変わるので、展覧会の内容や見どころを外国人観覧者に知っておいてもらった上で購入してもらう必要がある。簡潔な展示内容、順路、音声ガイドなどの案内業務は外国人観覧者に安心感を与え、さらに展示に対する理解促進につながると思われる。そして何より私達にとり財産となるのは彼らの「生」の声、すなわち感想や時には苦情が直に聴ける点にある。このような「生」の多言語対応こそ、博物館が大切にすべきおもてなしではないかと考える。

奈良国立博物館のこのような多言語対応サービスを通じて、来館される外国人観光客にゆつくり、そしてスムーズに展示を楽しんでいただき、日本文化への理解を深めていただければ幸いである。さらに欲を言えば奈良国立博物館での時間が日本の楽しい思い出の一つになることを、私は希望している。

【表紙解説】

重要文化財 十二神将立像

じゅうにしんしょうりゅうざう

木造 彩色・鍍金
像高 九五・〇〜一一〇・六cm
平安時代(十二世紀)
奈良 東大寺

十二神将は薬師如来の信者を守護する役割をもつ十二の将軍。この東大寺の一具の群像は、作風から十二世紀の作と認められる。本来、十二神将と十二支とは関係のないものであったが、平安時代後期までには合体したとみられ、その現存する最古の作品こそこの東大寺像である。頭頂や腹部には明確に動物が表され、多くが当初のものであることは貴重。ちよこんとすわった猿、ムササビのような虎(写真)、ちよつと脇見をする可愛い犬など、なかなか魅力的な造形である。(当館上席研究員 岩田 茂樹)

◆わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」にて
7月13日から9月8日まで展示

出陳一覽

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

6月25日(火)～

彫刻

【第1室】

如来立像 当館
如来立像 当館
地藏菩薩立像 当館
阿彌陀如来立像(裸形) 当館
藏王権現立像 当館
狛犬 当館

【第2室】

舞楽面 皇仁庭 東大寺
舞楽面 貴徳 東大寺
二天王立像 室生寺

【第3室】

宝冠阿彌陀如来坐像 安楽寿院
阿彌陀如来坐像 当館
阿彌陀如来坐像 金剛寺
阿彌陀如来立像 当館
阿彌陀如来立像 個人
阿彌陀如来立像 個人
阿彌陀如来立像 個人

【第4室】

侍者坐像 当館
菩薩坐像 觀音寺
菩薩立像 金竜寺
虚空藏菩薩坐像 文化庁
文殊菩薩坐像 薬師寺

【第5室】

誕生釈迦仏立像 正眼寺
誕生釈迦仏立像 個人

誕生釈迦仏立像 当館
誕生釈迦仏立像 当館
菩薩立像 当館
菩薩半跏像 興福院
觀音菩薩立像 法隆寺
觀音菩薩立像 観心寺
觀音菩薩立像 金剛寺
如来坐像 個人
誕生釈迦仏立像 個人
二仏並坐像 当館
菩薩立像 個人
十一面觀音菩薩立像 個人
力士立像 個人
如来立像 光明寺
如来立像 当館
釈迦如来坐像 園城寺
藏王権現立像 当館
誕生釈迦仏立像 薬師寺
不動明王立像 当館
勢至菩薩立像 当館

【第6室】

阿彌陀如来立像(裸形) 浄土寺
阿彌陀如来立像 興福寺
多聞天立像 当館
如来三尊像 当館
如来三尊像 個人
如来立像 当館
十一面觀音菩薩立像 薬師寺
如意輪觀音菩薩坐像 当館
吉祥天立像 法明寺
阿彌陀如来坐像 歡喜寺
阿彌陀如来坐像 西大寺
阿閼如来坐像 西大寺

【第7室】

十一面觀音菩薩立像 海住山寺
(特別公開)



十一面觀音菩薩立像

十一面觀音菩薩立像 海住山寺
十一面觀音菩薩立像 勝林寺
十一面觀音菩薩立像 新薬師寺
十一面觀音菩薩立像 当館
十一面觀音菩薩立像 薬師寺
千手觀音菩薩立像 園城寺
觀音菩薩立像 当館
光背(二月堂本尊所用) 東大寺

【第8室】

宝冠阿彌陀如来坐像 當麻寺
大日如来坐像 十市町自治会
梵天立像 秋篠寺
救脱菩薩立像 秋篠寺
天部形立像 兵庫県
天部形立像 十市町自治会

【第9室】

龍猛菩薩立像 泰雲院
地藏菩薩立像 十市町自治会
明星菩薩立像 弘仁寺
地藏菩薩立像 大福寺
准胝觀音菩薩立像 文化庁

【第10室】

馬頭觀音菩薩立像 浄瑠璃寺
不動明王立像 正智院
不動明王坐像 正寿院
不動明王立像 海住山寺
(特別公開) 不動明王立像

不動明王立像 個人

【第11室】

閻魔王坐像 金剛山寺
伽藍神立像 当館
(特別公開) 海住山寺
地藏菩薩坐像 靈山寺
四天王立像 海住山寺
大將軍神坐像 大將軍八神社
善導大師坐像 念佛院
聖德太子立像 成福寺
僧形神坐像 当館
女神坐像 当館
童子形坐像 当館

【第12室】

阿彌陀如来立像 西法寺
如来立像 個人
增長天立像 称名寺
十二神将立像(辰・未神) 室生寺

【第13室】

如来倚像(押出仏) 当館
觀音菩薩立像(押出仏) 当館
如意輪觀音菩薩坐像 当館
地藏菩薩立像 当館
僧形立像 当館
十一面觀音菩薩立像 当館
十一面觀音菩薩立像 当館
藏王権現立像 大峯山寺
破損仏像残欠コレクション 当館

珠玉の仏教美術

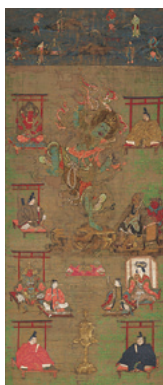
名品展

西新館

【絵画】

7月13日(土)～8月18日(日)
●十二天像(梵天・帝釈天) 聖衆来迎寺

●十二天像(伊舎那天・日天・月天) 西大寺
●東大寺戒壇院厨子扉絵図像 当館
十卷抄(天部) 当館
釈迦十六善神像 西大寺
玄奘三蔵十六善神図 南明寺
●毘沙門天像 知恩院
●毘沙門天像 海龍王寺
聖僧像 当館
吉祥天像 湛海筆 宝山寺
妙音天像 宝蔵寺
釈迦五尊十羅刹女像 当館
弁才天十五童子像 専称寺
弁才天十五童子像 個人
十曜曼荼羅 宝山寺
十仏十王図 当館
春日日本迹曼荼羅 個人
熊野曼荼羅 錦織寺
吉野曼荼羅 西大寺



吉野曼荼羅

8月20日(火)～9月23日(月・祝)

子鳥荒神像 当館
雨宝童子像 個人
●仏涅槃図 陸信忠筆 当館
●十王図 陸信忠筆 当館
●五百羅漢図 林庭珪・周季常筆 大徳寺
羅漢図 陸仲淵筆 能満院
●北斗九星像 宝蔵寺
マニ教宇宙図 個人
マニ教聖者伝図 個人
マニ教天界図 個人
万五千仏図 不動院
水月觀音像 個人
水月觀音像 談山神社
●施餓鬼図 薬仙寺

花鳥図
探幽縮図(仏画集)
長谷寺 当館

【書跡】

7月13日(土)～8月18日(日)

諸菩薩求仏本業經(五月一日経) 当館
●賢愚經卷第十五(大聖武) 東大寺
●弘明集卷第十七(中尊寺経) 当館
●一字蓮台法華経 龍興寺



●一字蓮台法華経 龍興寺

法華経(残卷)(装飾料紙)

写経手鑑 紫の水

般若心経(隅寺心経)

大般若経卷第三百十六断簡

三宝絵断簡(東大寺切)

明月記断簡

●阿弥陀悔過料資財帳

西大寺資財流記帳

根来寺伽藍古絵図

古今和歌集

8月20日(火)～9月23日(月・祝)

須真天子経

●金光明最勝王経(紫紙金字)

華嚴経卷第五十(泉福寺経)

●法華経(一品経)如来寿量品第十六 慈光寺

梵薪(宋版一切経)

雜見集

立川流儀軌

訶梨帝母法

六字河臨法記

慈信寄進状(額安寺文書)

金岡東庄下地中分関係文書(額安寺文書)

●本殿背面図(談山神社本殿造営圖並所用具圖)
談山神社 個人

論第一卷尋思抄(別)

7月13日(土)～8月18日(日)

●飛天像(縦笛)(金堂天蓋附屬) 法隆寺
天蓋軸部 当館(野田コレクション)

當麻曼荼羅厨子軒先板 復元模造 当館

●華鬘

●種子華鬘

●菊牡丹文華鬘

●幡頭

●錦幡

●五瓶形外容器

●火焰宝珠形舍利容器

●鉄宝塔

●組法具

●蓮弁飾一面器

●宝相華文透彫華籠

●華籠

●持蓮華

●蓮華形香炉

●獅子牡丹文香合

●牡丹尾長鳥文盆

●戒体箱

●宝相華文蓮華形磬

●蓮華形磬

●蓮華形磬

●草花孔雀文磬

●蓮華文磬

●孔雀文磬(長谷寺等銘)

●孔雀文磬(南都新浄土寺銘)

●飛天像(鉸子)(金堂天蓋附屬)

天蓋軸部 当館(野田コレクション)

當麻曼荼羅厨子軒先板 復元模造 当館

●牛皮華鬘(於舌)
当館

●種子華鬘

●菊牡丹文華鬘

●幡頭

●髻漆卓

●五瓶形外容器

●火焰宝珠形舍利容器

●鉄宝塔

●組法具

●蓮弁飾一面器

●宝相華文透彫華籠

●華籠

●持蓮華

●蓮華形香炉

●獅子牡丹文香合

●香盆

●獅子牡丹文信貴形水瓶

●宝相華文蓮華形磬

*土偶(茨城県常陸大宮市三美出土)
茨城県立歴史館

*土偶(茨城県笠間市柏井出土)
茨城県立歴史館

*土製耳飾(群馬県宇都宮市遺跡出土)
茨城県立歴史館

*土製耳飾(群馬県宇都宮市遺跡出土)
茨城県立歴史館

*注口土器・香炉形土器ほか
(青森・岩手県出土) 当館

*人面付土器(茨城県海後遺跡出土)
茨城県立歴史館

*流水文銅鐸(奈良県山町出土)
当館

*袈裟褌文銅鐸(出土地不明) 妙国寺

*短甲・頸甲・肩甲・眉庇付冑・衝角付冑
(大阪府野中古墳出土) 当館

*ジョッキ形須恵器(京都府下植野南遺跡出土)
京都府立山城郷土資料館

*円筒埴輪棺(京都府金比羅山古墳出土)
京都府立山城郷土資料館

*特殊埴輪埴輪(京都府金比羅山古墳出土)
京都府立山城郷土資料館

*盛装男子埴輪(群馬県出土)
当館(8月4日)



●宝相華文蓮華形磬 赤松院



盛装男子埴輪 当館

単弁蓮華文軒丸瓦(奈良県山田寺跡出土)
当館

複弁蓮華文軒丸瓦(奈良県川原寺跡出土)
当館

古瓦(龍角寺・千代庵寺・武蔵国分寺出土)
当館

蓮華文鬼瓦(奈良県奥山久米寺出土)
京都国立博物館

●鬼面文鬼瓦(奈良県大安寺出土)
個人

六角形埴埴(三重県天華寺跡出土)
当館

方形三尊埴埴(奈良県南法華寺出土)
南法華寺

方形三尊埴埴(奈良県南法華寺出土)
南法華寺

塑像断片(滋賀県雪野寺跡出土)
福命寺

●粟原寺三重塔伏鉢
談山神社

●山代忌寸真作墓誌
当館

●佐井寺僧道業墓出土品(墓誌・蔵骨器)
当館

行基墓誌残片
当館

●青磁碗・皿(島根県萩村古墓出土)
当館

●滑石製弥勒如来像(延久三年銘)
当館

●長崎県鉢形領経塚出土
当館

●滑石製宝塔形経筒(出土地不詳)
当館

●銅製宝塔形経筒・銅造如来立像
(伝福岡県出土) 当館(8月18日)

●銅製経筒・滑石外筒(伝福岡県出土)
当館(8月20日)

●銅製鍍銀経箱(奈良県金峯山経塚出土)
金峯神社

●法華経・無量義経残欠(藤原道長願経)
(奈良県金峯山経塚出土) 金峯神社(8月18日)

●法華経・無量義経残欠(藤原師通願経)
(奈良県金峯山経塚出土) 金峯神社(8月20日)

●線刻威王権現鏡像
(奈良県金峯山経塚出土) 金峯山寺

(※は考古資料相互活用促進事業による出品)

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館

中国古代の商(殷)から漢代に製作された青銅器の逸品を展示しています。

※国宝、重要文化財

※展示品は都合により一部変更する場合があります。

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■7月21日(日) 「再び、空海の舎利信仰の源流について
—スリランカから東寺まで—」
内藤 栄(当館学芸部長)

唐から帰国した空海は日本に新しい舎利信仰をもたらしました。空海の舎利信仰は唐に源あり、と言いたいところですが、さすが唐は国際国家。空海の師匠たちはスリランカに旅し舎利法を学びました。空海の舎利信仰の原点に迫ります。

■8月18日(日) 「文化財を科学するⅥ」
鳥越 俊行(当館学芸部保存修理指導室長)
博物館では、展示に合わせていろいろな調査を実施しています。今回は、「法徳寺の仏像」展で実施した彫刻作品の調査を中心に、最新の成果をお話します。

■9月15日(日) 「平安時代の寺社参詣」
斎木 涼子(当館学芸部主任研究員)
平安時代の人々にとって、寺社はどのような存在であったのか。寺社への参詣という行動を通じて、人々の信仰の一端を垣間見ます。

■10月13日(日) 「第7回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」
吉澤 悟(当館学芸部列品室長)
奈良国立博物館の庭園にひっそり佇む八窓庵。江戸中期に建てられた織部好みの名茶室です。普段は見られない茶室の内部をご案内いたします。雨天の場合は講堂で写真解説いたします。

■11月17日(日) 「東大寺戒壇院厨子扉絵をめぐる
—追憶の天平仏画」
谷口 耕生(当館学芸部教育室長)
鑑真和上の創建になる東大寺戒壇院に安置された華嚴経厨子には、梵天・帝釈天など秀麗な天部の姿を表した扉絵が描かれていました。原本が失われた後も各時代にわたって写し継がれた名画の魅力を紹介し、その天平の面影に迫ります。

■12月15日(日) 「古写真と仏像研究」
山口 隆介(当館学芸部主任研究員)
たった1枚の古写真が、仏像の知られざる歴史の一側面を明らかにすることがあります。仏像研究における古写真の有用性について、近年の調査成果をふまえてお話します。

【時 間】 各回とも14:00～15:30 (13:30開場)
【会 場】 当館講堂
【定 員】 各回194名 (先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)
※当日12:30から当館講堂前にて入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。
※入場受付はトーク開始後30分で終了いたします。

◆奈良国立博物館賛助会

令和元年6月30日現在、特別支援会員4団体、特別会員4団体、一般会員(団体)17団体、一般会員(個人)69名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社、結の会、(株)葉風泰夢、桃谷樓

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、ノブレスグループ、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、校倉な会、(株)南都銀行、小山(株)、医療法人社団成風会、金剛(株)、(株)グラスパウハーゲンジャパン、(有)志津香、茶道裏千家淡交会奈良支部

〔個人会員(新規)〕 鍵岡 璋典様 平成31年4月 ご入会

❖ 特別陳列「法徳寺の仏像」 公開講座❖

8月24日(土) 「近代を旅した仏たち
—奈良ゆかりの仏像を中心に—」
山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

【時 間】 各回とも13:30～15:00(13:00開場)
【会 場】 当館講堂
【定 員】 各回194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)
※当日12:00から講堂前にて入場整理券を配布します(お1人様につき1枚)。
※入場整理券の受取の際には、本展の観覧券もしくはその半券、奈良博プレミアムカード等をご提示ください。
※入場受付は講座開始後30分で終了いたします。

❖ 「いのりの世界のどうぶつえん」イベント情報❖

■親子講座「どうぶつえんのわくわくガイド」

【日 時】 7月27日(土)
① 10:30～11:15 ② 13:30～14:15
【会 場】 当館講堂
【講 師】 中川あや(当館学芸部主任研究員)
【対 象】 小・中学生とその保護者
【定 員】 各回30組(申込先着順)
【参加費】 無料

■絵本づくりワークショップ

「とびだす! うごく! いのりの世界のどうぶつ」

キットを使って、「辟邪絵」に登場する神虫、「春日鹿曼荼羅」に登場する神鹿をモチーフにしたしかけ絵本を作る、親子向けのワークショップです。

【日 時】 8月17日(土)
①10:00～12:00「パクパク神虫」
②13:30～15:30「フワリと神鹿」
【会 場】 当館地下回廊
【対 象】 小・中学生とその保護者
【定 員】 各回18組(申込先着順)
【参加費】 無料
【主 催】 奈良国立博物館・奈良教育大学大学院
「地域と伝統文化」教育プログラム
【協 力】 近畿ESDコンソーシアム

※いずれのイベント共、当館ホームページよりお申し込みください。
※7月1日(月)より受付を開始し、先着順で定員になり次第、受付を終了させていただきます。

◆キャンパスメンバーズ

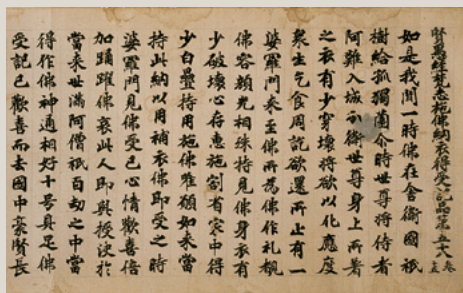
令和元年6月30日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大谷大学、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学・京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学 (以上、五十音順)

展示品の みどころ

賢愚経 卷第十五(大聖武)

国宝
紙本墨書
縦27.5cm 長1,245.4cm
奈良時代(8世紀)
奈良 東大寺



茶毘紙と呼ばれる料紙を用いた奈良時代の写経。料紙には茶色い粒が漉き込

まれており、これを茶毘に付された釈迦の遺骨の粉に見立てたため、この呼び名がある。従来、実際に料紙に漉き込まれた粒は香木の粉末とされてきたが、近年の研究では、料紙の原料である樹木、真弓の皮の一部などであることが判ってきた。

一般的な写経は一行十七字だが、こちらは一行十二字で文字が大きく、行の幅(界幅)も通常より広い。本品は通称「大聖武」と呼ばれるが、これは特徴的な料紙と風格のある大文字の奈良朝写経という特徴から、古筆鑑定の世界で、書き手を聖武天皇と伝承してきたためである。本品を含め、卷子の状態で数巻、また断簡(写本や写経を鑑賞のため切り取ったもの)が多数存在する。名筆を愛でる古筆鑑賞においては、最も珍重されたものの一つで、古筆の断簡を集めた手鑑では、冒頭を飾る。そうしたなかで、本品はほぼ本来の一巻の姿を保つ貴重な遺例である。

斎木 涼子(当館学芸部主任研究員)

◆7月13日～8月18日 名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

宝相華文透彫華籠

国宝
銅製 鍍金銀
径28.2cm
鎌倉時代(13世紀)
滋賀 神照寺



仏教法会(ほうえ)の場で紙・布製の花卉を撒く「散華(さんげ)」という供養法がある。生花をもって貴人をもてなした古代インドの風習が、仏・菩薩の讃歎供養の法として仏教に取り入れられたものである。この散華の花卉を盛る器物が華籠である。

滋賀県長浜市の神照寺に伝来した16枚の華籠は、宝相華文を透彫した金銅製の遺品で、類例の中では特に華やかな装飾性を誇る。16枚は文様や技法の特徴から、平安時代後期のものと、鎌倉時代後期のものに分類されるが、このたび展示する2枚は後者に該当する。

本品でまず目を引くのは透彫文様であろう。中心から三方に伸びた唐草が分岐を繰り返し全面に展開する構成は巧みである。花の形や鍍金・鍍銀の使い分けで変化をもたせる点にも優れた意匠感覚が示される。文様表現を支える彫金の技も注目される。透彫の縁や花の細部を斜めに彫り崩し、文様に立体感をもたせるほか、花の葉などに多様な彫金技法が駆使される。加工痕がよく残り、幾分粗い仕上げに見えるが、かえってそれが手仕事由来の深味を感じさせる。鎌倉時代を代表する金工の名品をじっくりご覧いただきたい。

三本 周作(当館学芸部研究員)

◆7月13日～9月23日 名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

開館日時(7月～9月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

- ・金・土曜日は午後8時まで。
- ・夏季特別陳列会期中(7月13日～9月8日)の日～木曜日は午後6時まで。
- ・8月5日(月)～15日(木)は午後7時まで、8月9日(金)・10日(土)は午後9時まで
- ※入館は閉館の30分前まで

■休館日／毎週月曜日

- ・7月15日、8月5日・12日、9月16日・23日は開館し、7月16日(火)、9月17日(火)・24日(火)は休館。

■無料観覧日(名品展のみ)

9月1日(関西文化の日プラス)

■観覧料金

名品展・特別陳列・わくわくびじゅつギャラリー

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

- ※団体は20名以上です。
- ※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は無料です。
- ※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します。[親子割引]
- ※開館時間延長日の午後5時以降に観覧される方は、団体料金を適用します。[レイト割引]



●バス停
[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車
※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。